

開催期間:

2012 年 10 月 8 日

一回目の送付の際は文字は黒で 2 回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

40members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

名古屋市・名古屋市教育委員会・レゴブロック関連企業3社

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

US\$16,660

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

None

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

名古屋市内の小学校に通う小学生及び名古屋市に住み暮らす人々220万人

主語を忘れないように「我々 JCIOOは、」「我々委員会は、」です。

## 目的:

### <目的1>

本事業は、次世代に、OMOIYARI を行動規範として、お互いの価値感を尊重すること。彼らがまちづくりについて OMOIYARI を実行とすること目的としている。

### <目的2>

上記目的1のような次世代を育成することに、  
市民の意識開発を行うこと。

これらの目的達成は、持続的発展する安定した地域社会を作ることにつながります。

3行程度 400字以内

- ①名古屋市の世論調査で「現在まちづくりに参加している」という市民はわずか 4.8%
- ②まちづくりに参加する市民が少ないと、相互理解の機会がなく、地域の課題解決は出来ない。
- ③地域の課題解決にあたっては OMOIYARI を行動規範とすることが必要。
- ④OMOIYARI を行動規範とすることは、他者の異なる価値観を相互に理解し尊重することであり、それは互いを尊重する結果をもたらす。
- ⑤今後の名古屋市を担う次世代に、OMOIYARI を行動規範としてまちづくりに参加してもらいたい。
- ⑥その為には、次世代が地域開発について、他者との相互理解を実践し、今後のビジョンや目標をもつ必要がある。
- ⑦その為には、市民が OMOIYARI によって次世代を育成することの重要性の意識開発が必要である  
地域開発について、他者との相互理解を実践し、今後のビジョンや目標をもつ必要がある。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

## 概要:

### <概要>

JCI 名古屋は100名の次世代を集め青少年育成プログラムを3段階に分けて実施した。

・レゴブロック関連企業がレゴブロックを提供し、JCI 名古屋のメンバーをチームのメンターとなるよう、レゴブロックをつかったブレインストーミングセミナーの手法をレクチャーした。

#### ① 学ぶ・考える

- ・地位開発の専門家をファシリテーター(プログラム進行の専門家)として協力を得た。
- ・次世代が JCI 名古屋の研究映像を基に地域の歴史・文化について学ぶ
- ・次世代が「市民が OMOIYARI を行動規範として生活する町」をテーマに地域の代表と魅力や問題点について議論する。地域開発についてのアイデアを得る。
- ・自らの理想とする地域の未来をイメージする機会を提供する。

#### ② 具体化・表現する。

- ・次世代が同じコンセプトで自分の考える地域の未来についてレゴブロックで表現する。
- ・次世代10人単位で全10チームを結成。
- ・JCI 名古屋のメンバーがチームのメンター(プログラム進行上の相談者)となりサポートする。
- ・個々の作品をチーム内でプレゼンする。
- ・個々のプレゼンに対してチーム内で議論する。
- ・個々の作品のアイデアを組み合わせ、チームとして一つの作品を作る。
- ・完成した作品のイメージ通りの地域を創造するために何をすべきかをチームで議論する
- ・個々のアイデアを活用しながらチームで協働して共通する未来をクリエイトする。

#### ③ 発信・実践する。

- ・全ての作品を市民 3000 人の集まるイベント会場に展示。
- ・次世代の保護者や来場者に対してプレゼン・意見交換。

全部で 400 字以上

主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること

結果をキチンと確認しないとココは書けません。  
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり  
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

## 結果：

<結果1> 次世代が OMOIYARI を行動規範とする地域開発についてのビジョンや目標を持った。

①次世代が OMOIYARI を行動規範とする地域開発についてのビジョンや目標を持つことで、相互に人権を尊重することを学んだ。

②次世代が OMOIYARI を行動規範とする地域開発についてのビジョンや目標を持つことで、都市の環境が維持される相互ことを学んだ。

<結果2> 次世代を育成することに市民の社会貢献意識が開発された。

<結果1の根拠>

① の理由

-プロセスを通じ、参加者は、他の参加者の異なる価値観や個性を学んだ。

-作品制作を通じて、参加者の90%が「お互いの意見を理解し、尊重する事ができた」と回答した。

-作品制作を通じて、参加者の85%がお互いの意見を尊重しながら、チームメイトと一緒に将来の名古屋市を作れたと階と下。「OMOIYARI を行動規範として生活するまち」というテーマに基づいた作品となったと回答した。

②の理由

作品制作を通じて、次世代の相互理解のもと、環境意識の高い都市計画が作成された。

(例) 作品タイトル「緑が多くきれいなまち」

これに対する議論の内容。

「ごみを拾う」「みんなで花を植える」という意見が提示された。



<結果2の根拠>

協力企業であるレゴブロック®関連企業担当者のコメント

「最初にお話を頂いたとき、単純に素晴らしい事業だと思った。

多くのレゴブロックを購入するには予算が足りないというお話があったが、ぜひとも協力したいと考え、弊社の CSR 活動として協力させて頂いた。」

「子供の成長に良い変化を与えたと思う。継続してほしいし今後とも、協力したい。」

「プログラムの有効性が証明された。JCI のメンバーの方はこのプログラムを他団体や他の地域に広めてほしい」

名古屋市と名古屋市教育委員会の担当者がプロジェクトを視察

評価が高く名古屋市の青少年教育プログラムへの採用が検討されている。

来場者である市民へのヒアリング結果

「次世代が地域の事をどの様に考えているかを知り刺激となった」

「次世代の考えを知り、地域開発について改めて考える必要性を感じた」

「次世代の明るい未来のためにまず我々が行動しなければならない」

検証結果を簡潔に書いて下さい

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

## 行動:

2012年

3月 事業企画

4月 他組織の事業見学・成功事例の検証

5月 地域開発について再考・有識者会議の開催

6月 コンテンツ(手法)の議論・確定

7月 JCI 名古屋メンバーによる実演検証。事業立案

8月 JCI 名古屋メンバーがレゴブロック関連企業の紹介によるメンター講習を受講

9月 参加者の募集・PR 活動開始

10月 事業開催

11月 お礼状の発送・協力企業と事後検証。今後の活動についての打ち合わせ。

受付

主催者挨拶・趣旨説明

パート①開始

JCI 名古屋による地域研究映像発表

次世代と地域開発の専門家との議論

パート②開始

レゴブロックの使い方の講習

個人の作品制作

チーム結成(JCI 名古屋のメンバーがメンターとなる)

個々の作品発表・

議論する事によりそれぞれのアイデアを共有

アイデアを融合したチームでの作品制作

参加者同士の制作発表

パート③

イベント会場での展示

来場者にプレゼンテーション・意見交換

地域開発の専門家による総括

全部で 200 字以上  
2000 字以内程度

## 考察や推奨

事業のプログラムが相互理解→コンパッション→なすべきことをなすという OMOIYARI 運動のプロセスである。

- ・我々の掲げるまちのビジョンが、多くの市民に理解され賛同を得ることができた。
- ・企業、協力団体の CSR 活動の育成と理解に成功した。
- ・市民に、社会的貢献の意識を高める機会を与えることができた。
- ・市民が、自ら行動を起こすことに成功した。

### <事業成功のプロセス>

言葉だけでは表現できない個人の考えるアイデアやイメージを形にする。



個人のアイデアやイメージをチームのメンバーと共有する。



個人のアイデアやイメージをチームのアイデアやイメージとして共有する。



チームで共有したアイデアやイメージを形にする。

このプロセスが協働である。

このプロセスの中で個人は異なる役割を果たしながら地域開発に貢献している事を実感する。

そして個人の価値や貢献を作品として可視化する事で、モチベーション高まる。

これにより個人の意識・行動が前向きに変化しポジティブチェンジする事ができます。

	<p>&lt;改善点&gt;  10人でチームを結成した。  よって10のアイデアがあり、次世代がまとめることは困難であった。  全員のアイデアが活かされない作品もあった。</p> <p>&lt;改善方法&gt;  チームの人数を少なくして開催する。  JCI名古屋のメンバーがメンターとしての能力を高めサポートする。</p>
	<p>&lt;一番のポイント&gt;  次世代同士が協働するプログラムとした事。  これによりポジティブチェンジし易くなった。</p> <p>&lt;次年度メンバーに伝えたい事&gt;  ・このプログラムの継続。  ・LOM 内で活用し、地域のリーダーに必要な考え方・資質やスキルについて共通のイメージや目標を明確にする事。</p>

全部で200字以上	
	<p>協力企業であるレゴブロック関連企業担当者のコメント</p> <p>「最初にお話を頂いたとき、単純に素晴らしい事業だと思った。多くのレゴブロックを購入するには予算が足りないというお話があったが、ぜひとも協力したいと考え、弊社の CSR 活動として協力させて頂いた。」</p> <p>「子供の成長に良い変化を与えたと思う。継続してほしいし今後とも、協力したい。」</p> <p>「プログラムの有効性が証明された。JCI のメンバーの方はこのプログラムを他団体や他の地域に広めてほしい」</p>
	<p>地方新聞に掲載(発行部数276万部)</p> <p>地方テレビ局でのニュース報道(480万世帯視聴可能)</p>